



～OH! 魅力～

# 淡海力

～OH! 魅力～



おうみ未来塾 5期生の記録

おうみ未来塾5期生生活動記録誌

# 淡海力

～OH! 魅力～



2003年6月7日～2005年3月5日

# 目次

contents

①	おうみ未来塾5期生に向けて .....	1
	塾長 日高 敏隆 運営委員 北村 裕明、岡崎 昌之、藤井 絢子、 岸田 眞代、辻川 作男	
②	おうみ未来塾5期生の紹介 .....	5
③	おうみ未来塾5期生の2年間 .....	7
④	グループ研究活動	
	(1) シンク『環境』コミュニティG .....	23
	(2) まなぶくん .....	43
	(3) 応援志隊 .....	65
	(4) Four Leaves .....	83
⑤	個人のページ .....	103
⑥	事務局からメッセージ .....	123



おうみ未来塾塾長

日高敏隆

(総合地球環境学研究所長)

---

### 卒塾を祝って

5期生の皆さん、卒塾おめでとう！

2003年の6月から2年間の間にずいぶんいろいろなことをしましたね。皆さんの熱意とエネルギーと実行力に敬服しています。

考えてみると、昔のぼくらにはこういう場はありませんでした。

その点だけでも、おうみ未来塾は皆さん一人一人にとって、大きな意味をもっていたと思います。

ぼくがやたらと忙しかったので、皆さんと会ってゆっくり話ができたのも、あの「てんしょく」のときだけでした。もっとああいう機会をもちたかったです。

でも、とにかくあのとき、じつにいろいろな人がいるんだなということがわかって、とてもうれしかったです。残念ながらあの「てんしょく」はなくなってしまったそうですが、皆さんの一人一人が持前の味をだして、元気で何かをしつづけて行ってほしいです。

心配だったのは、人材育成とか環境教育とかということばが、わりと気安く出てきすぎたような気がしたこと。ぼくの思いすごしかもしれませんが。

近ごろ読んで感銘したのは、文一総合出版から出た『持続不可能性』という本です。少々意外なタイトルですが、わかるところだけを拾って読んでも勉強になるでしょう。少々高い本なので、ネットワークセンターで買ってもらおうかと思っています。

それでは皆さん、ごくろうさまでした。これからもぜひお元気で！



おうみ未来塾運営委員長  
**北村 裕明**  
(滋賀大学副学長)



おうみ未来塾運営委員  
**岡崎 昌之**  
(法政大学教授)

## 地域プロデューサーの時代

おうみ未来塾5期生のグループ研究の成果がまとめられ、このような冊子体で刊行されることをうれしく思います。本冊子には、皆さんが2年間この塾で学ばれた成果が凝縮されていますし、地域プロデューサーとしての活動の種がちりばめられています。

おうみ未来塾は、地域プロデューサーの養成を目指した学校です。卒塾は、皆さんが地域プロデューサーとして大きく羽ばたくための第1歩です。本塾で学ばれたこと、グループ研究で深めた知識や考え方、新たに作られたネットワークを活用して、本格的な地域プロデューサーの活動に取り組んで下さい。

21世紀に魅力ある地域社会を作り上げることができるかどうかは、地域の問題を自らの問題として考え、政策化し、解決のために行動に移す人々の数と質にかかっています。まさにこれからの時代は、地域プロデューサーの時代であるといえましょう。卒塾された皆様方の活躍を心から期待いたします。

## 地域プロデューサーとして羽ばたいて下さい。

2年間のネットワークを最大限に活用することが肝要ではないでしょうか。これからのまちづくりは、皆さん方、地域に根付いた地域プロデューサーが主役です。これまでのまちづくりはどちらかといえば、県や市町村といった行政が中心となって牽引してきました。それは均衡ある発展を国全体として目指していたからです。道路や橋、施設といったハードの整備のためには、行政のリードが必要だったのです。しかしこれからのまちづくりはテーマが変わってきます。開発から保全に、均衡ある発展から、個性ある持続的まちづくりこそが不可欠となってきたのです。

テーマは3つあります。景観や環境を重視する「美しいまちづくり」、多くの住民が対等な立場で参加できる「魅力ある暮らしの場づくり」、コミュニティ・ビジネスや活力ある地域経済が基盤となった「自己実現できる地域づくり」です。これらのテーマはいずれも、行政だけに任せておいて出来上がるものではありません。住民の主体的な参加があって初めて可能です。その先頭に立って新しいまちづくりを担うことが、地域プロデューサーに期待されるのです。



おうみ未来塾運営委員  
**藤井 絢子**  
(滋賀県環境生活協同組合理事長)



おうみ未来塾運営委員  
**岸田 眞代**  
(NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事・事務局長)

おうみ未来塾5期生の皆さん、卒塾おめでとうございます。塾生同士の交流や議論、フィールドワークを通じた新しい出会いなど、この2年間で得られたことは多かったでしょうか。

おうみ未来塾は「地域プロデューサー」が育つ塾と言っていますが、自ら課題を発見し、それを解決するための方法を考えて、解決に向けてチームで行動を起こすということを実践するプログラムとなっています。特にチームで合意しながら活動をすすめるグループ研究で、皆さんは苦労されたのではないかと思います。

皆さんの活動はこれからです。おうみ未来塾での経験を糧に、現場に出て地域の課題を捉え、そこに関わった一人ひとりが当事者になるようなプロデュースに心配りしてください。未来塾生、淡海ネットワークセンタースタッフ、そして私たち運営委員とも、今後さまざまな場面で出会い、同じ目的に向かって一緒に活動することがきっとあるでしょう。そのときに皆さんがそれぞれ地域で取り組まれた成果を拝見できることを、楽しみにしています。

5期生の皆さん、ご卒塾おめでとうございます。「おうみ未来塾」での2年間、どれだけの収穫が得られましたでしょうか？

「おうみ」を自分の地域として感じる事ができましたでしょうか？

「未来」が少しは見えませんでしたでしょうか？

私自身、日々のNPO活動のなかで、躓いたり迷ったりばかりしていますので、そんなに偉そうに言えるわけでもありませんし、また簡単に自分の思うとおりにいかないことも重々承知しています。

それでも、初めて訪れた土地のフィールドワークに参加して思いも寄らない刺激を受けたり、あるいは、卒塾生を含む未来塾生たちが、わざわざ名古屋にまで来てくださってともに議論したり時に仕事に発展するチャンスがあったりすると、本当にこの「おうみ未来塾」が、私にとっても視野を広げさせてくれたり新たな方向を与えてくれるものになっているな、と心から感じることができるのです。

わざわざ遠くから（実は意外に近いのですが）私が来ることもないのでは？とか、そろそろ潮時では？と思いつつ、それでもついつい「おうみ未来塾」に通い続けてきているのは、そうした目に見えるもの見えないものを含めた、大いなる収穫（刺激？）があるからかもしれません。

おそらくみなさんも、ここでの出会いや経験を生かして、きっと「おうみ」を自分の「地域」にしていくことでしょう。そして、それぞれの「未来」をしっかりと手にしていくに違いありません。それが、もしかしたら・・・、「未来塾」がめざす、地域のさまざまな協働の担い手としての「地域プロデューサー」の誕生につながるのかもしれない。

「未来塾生」がもっともっと先につながっていくことを、心から期待しています。



おうみ未来塾運営委員

辻川 作 男

(NPO法人 ギャラリーシティ楽座 理事)

### 5期生のみなさんへ

5期生のみなさん、卒塾おめでとうございます。1年目の珍しさと2年目の慌ただしさのなかで素晴らしい成果を収められたことに心から敬意を表します。

さて、少子高齢化問題が進むなか、「2007年問題」を含め日本の将来は人口減・超高齢社会となり、労働力不足と年金破綻によりあたかも「暗黒の時代」を迎えるかのごとく悲観論が声高に話されています。

果たしてそうでしょうか。江戸時代は大事な知識を一杯頭の中に蓄えた高齢者が実に大切にされた時代です。その時代では年長者が多い町こそ人が人を「もったいない」と思い敬う地域社会でした。そうであるならこれまで日本の戦後を切り開いてきた「団塊の世代」は、知識と経験と意欲をもった高齢者であり、彼らが定年で職場を去り地域に進出したときこそ現在以上に多くの地域課題を解決するエキスパートのNPO集団となるはずです。そして、好老文化が花開く新しい地域社会が生まれることを確信します。

であるからこそ、その時に備え皆さんは「地域プロデューサー」の資質を磨いてください。焦らず、慌てず、あきらめず・・・！本気度こそが真の成功者となる唯一の道です。今後のご精進を期待します。

**シンク『環境』コミュニティG**

荒川 茂美 (草津市)  
井上 春雄 (大津市)  
岡本 胤継 (奈良市)  
竹谷 利子 (草津市)

**まなぶくん**

川北 泰伸 (彦根市)  
斎藤 富士夫 (湖南市)  
中嶋 守 (虎姫町)  
西澤 勝 (大津市)  
邊見 千恵子 (長岡京市)

**応援志隊**

伊藤 久美子 (彦根市)  
小久保 弘 (志賀町)  
阪口 博司 (大津市)  
曾根 真紀 (彦根市)  
山田 幸子 (大津市)

**Four Leaves**

小田島 敦子 (大津市)  
竹崎 みき (甲賀市)  
南井 良彦 (守山市)  
吉田 創 (甲賀市)

おうみ未来塾5期生 活動経過

年月日	内容	場所	講師
2003年 6月7日	開講式 交流会	大津市 県民交流セン ター	日高敏隆塾長
	ワークショップ	大津市 県民交流セン ター	セブンドロップス
7月5日	ワークショップ	大津市 県民交流セン ター	岸田眞代委員
8月9日 ~10日	宿泊研修 フィールドワー ク	彦根市	織田直文委員 彦根市商工会議所 安達昇氏 彦根市花しょうぶ通り商店街 中溝雅士氏 彦根市登り町グリーン通り商店街 中村泰始氏 岡崎昌之委員 NPO法人蒲生野考現倶楽部
9月6日	講義	日野町 鎌掛しゃくなげ 学校	蒲生野考現倶楽部 森田英二氏 井阪尚司氏 小林信一氏
10月3日 ~4日	交流会		
	フィールドワー ク	長浜市	辻川作男委員
10月26日	4期中間発表会	大津市 県民交流セン ター	
10月28日	サブ講義	草津市 まちづくりセン ター	日野町 安田尚司氏 滋賀県NPO活動促進室 初宿文彦氏 5期生 阪口博司
11月8日	フィールドワー ク	新旭町	藤井絢子委員 新旭町役場環境課 阿部能英氏 農業 石津文雄氏
11月18日	塾生会	大津市 県民交流セン ター	
12月6日	ワークショップ	草津市 まちづくりセン ター	岸田眞代委員
	忘年会	草津市	
2004年 2月14日	作業	大津市 県民交流セン ター	
2月28日	レクリエーショ ン	栗東市 アグリノ里	
	作業	栗東市 さきら	
3月7日	4期卒塾式	大津市 県民交流セン ター	
3月12日 ~13日	合宿/作業	栗東市 こんぜの里	3期生 澤九麻男氏
4月4日	座談会	淡海ネットワー クセンター	Peter Susanne
4月29日	作業	草津市 まちづくりセン ター	
6月6日	6期開講式	大津市 アヤハレークサ イドH	北村裕明委員 藤井絢子委員
6月27日	5期6期 合同講義	大津市 県民交流セン ター	北村裕明委員
7月31日	公開講座	大津市 龍谷大学瀬田学 舎	岡崎昌之委員
10月10日	中間発表会	大津市 ふれあいプラザ	
12月11日 ~12日	合宿/忘年会	米原町 エクシブ琵琶湖	
2005年 1月15日	塾長を囲む会	草津市 てんしょく	日高敏隆塾長 3期生 名田陽一氏
2月13日	講義	大津 県民交流セン ター	山口洋典氏
3月5日	卒塾報告会 卒塾式 交流会	大津市 県民交流セン ター	

※ 幹事会 2003年 7/15 8/19 9/17 10/21 12/16 1/20 2/17 3/16  
 2004年 1/20 2/17 3/16 4/20 5/18 6/15 7/20 8/17 9/28 10/19 11/16 12/21  
 2005年 1/25 2/13

## おうみ未来塾 5 期生 2 年間の活動概要

### ◇ おうみ未来塾 5 期開講式（県民交流センター/大津市）

2003 年 6 月 7 日（土）

開講式 13:00～14:30

記念講演 「地域で行動するということ」

講師 日高 敏隆さん（おうみ未来塾塾長）

オリエンテーション 14:40～17:10

ワークショップ 「コミュニケーションゲーム」

指導 セブンドロップス（未来塾 1 期生）

これからの 2 年間一緒に学んでいく先生、仲間と  
はじめての対面式です。第 5 期生 21 名の紹介、さあスタート！気が引き締まる思いです。  
山川淡海文化振興財団理事長からの歓迎のあいさつのもと日高塾長の記念講演です。おうみ未来塾は地域のリーダーを育てるところではなく育つところであり、地域社会の新しい課題は探して見つかるのではなく、地域とかがわるることによって見えてくるものである。



したがって地域に根ざした活動が大事であると説かれました。5 期生に対して期待でなく楽しみにしているとの励ましの言葉をいただきました。

開講式に続いてセブンドロップス（未来塾 1 期生）の指導によるワークショップです。50 年前を思い出すフラフープをつかったゲームに徐々に気分は和らいでいきます。

市民活動をしている人とこれから行動しようとする人、現役の人、リタイヤの人、学生等老若男女 21 名の新たな出会いの記念すべきスタートの日でした。

### ◇ ワークショップ（県民交流センター）

2003 年 7 月 5 日（土）13:30～17:30

コミュニケーション&リーダー研修

〔講師指導〕岸田 眞代さん（未来塾運営委員）

よりよいコミュニケーションとは何か、リーダーとして求められる要件・能力とは何かについての講義でした。

自己分析によって自分の弱みを認識し、また、普段からよりよいコミュニケーションを意識して訓練することの大切さを知りました。



私たちの最初の講義での先生の第一声が今も心に強く残っています。

「約束の時間に遅れてはダメ！」

#### ◇宿泊研修（彦根市）

2003年8月9日（土）～10日（日）

【テーマ】現場を見て、現場の問題を解く

まちなかの歴史的商店街再生をプロデュースする

全国的に衰退著しいといわれるまちなか（中心市街地）の歴史的商店街再生の方途について、彦根市をフィールドワーク地を選び、どのようにプロデュースするとよいかの実践研究です。

〔場所〕彦根商工会議所、伊勢幾、ホテルレイクランド彦根、彦根燦ぱれす

〔講師指導〕 織田 直文さん（未来塾運営委員）

8月9日（土）

13:30～ 「彦根市の最近の中心市街地活性化の取り組みについて」

講話 安達昇さん（彦根商工会議所）

15:00～ 現地見学（ガイド：織田さん、安達さん）

夢京橋キャスルロード→市場商店街→銀座商店街→\*花しょうぶ通り商店街

→\*登り町グリーン通り商店街

18:30～ 夕食をはさんで夜学討論そして深夜まで夜なべ談義

8月10日（日）

9:00～ 今後のまちづくりに向けての提案検討

12:00 解散

彦根市には12の商店街があり、そのうち5つの商店街を織田先生、安達さんのガイドで見て回りました。各商店街ともよく工夫されて独自の特徴ある町なみで各商店街の人々の努力、苦勞、熱意を感じました。それにもかかわらず他の市街地とおなじく空き家が数多く見られ人の通りもまばらで深刻さが伝わってきます。

夜からは岸田先生（運営委員）も参加しての夜なべ談義、未来塾生に入った思いをみんな楽しく夜の更けるのを忘れて語り明かしました。

翌日は彦根のまちづくりについてのワークショップです。商店街の皆さんが必死に努力されており、なかなか具体的ないい案が浮かんできません。

それでも最後に安達さんから私たちの提案にたいして感謝の言葉をいただきました。外部の人間の意見、評価にも謙虚に耳を傾けることの大事さを感じました。また、みんなで考えを出し合い、まとめることの難しさを思い知らされた宿泊研修でした。



#### ◇ 研修（日野町）

2003年9月6日（土）13:30～16:30

【テーマ】たんけん・はっけん・ほっとけん

～蒲生野考現倶楽部の取り組み

廃校となった小学校を蒲生野考現倶楽部が借り受け、地元の人達や、サポーター（ボランティア）と一体となって「しゃくなげ学校」を開校しています。今回は蒲生郡日野町鎌掛をフィールドワーク地を選び、蒲生野考現倶楽部の取り組みについての研修です。

〔場所〕しゃくなげ学校（旧日野町立鎌掛小学校跡）

13:30～ 蒲生野考現倶楽部のとりくみについて

講話 井阪 尚司さん（NPO法人蒲生野考現倶楽部）

14:10～ 「自立的まちづくりと地域プロデューサー」

講話 岡崎 昌之さん（未来塾運営委員）

15:30～ 質疑・議論

16:30 解散

「しゃくなげ学校」は蒲生野の里山をフィールドにした大人と子どもの体験学習の場であり、蒲生野考現倶楽部（企画・運営・実行）と日野町教育委員会（施設管理）、鎌掛自治区（地域協力）との共同によって運営されています。

校舎ははるか昔の小学校時代（今から数十年前？）を思い出さしてくれます。

岡崎先生からは地方、農山村の価値の再認識とまちづくりの原点を説かれてこれからのまちづくりと地域プロデューサーの資質と役割はどうあるべきかを話されました。



#### ◇ 宿泊研修（長浜市）2003年10月3日（金）～4日（土）

【テーマ】現場を見て、現場の問題を解く

芸術イベントによるまちづくり～アート・イン・ナガハマ

市民手作りの芸術イベント「アート・イン・ナガハマ」に参加して市民の知恵と情熱をまちづくりにどのように活かしたか、その手法についての研修です。

〔場所〕 国民宿舎豊公荘、アート・イン・ナガハマ会場、曳山博物館

〔講師指導〕 辻川作男さん（未来塾運営委員）

10月3日（金）

19:00～ 懇親会（長浜まちづくり関係者、未来塾卒業生）

21:00～ 夜なべ談義

懇親会では卒業生たちの学ぶ未来塾から実践、発展する未来塾をこれから志すとの熱意ある話し合いがされました。新入生と卒業生お酒を酌み交わしながら未来塾について親しく語り合いました。

10月4日（土）

8:30～ 「芸術イベントによるまちづくり～アート・イン・ナガハマ」 講師 辻川作男氏

10:00～ アート・イン・ナガハマ会場見学（長浜市中心市街地）

13:00 解散

未来塾の先輩でもある辻川さんから長浜のまちづくりの歴史、現況について聞きました。

株式会社黒壁は歴史的な建築物の保存をと市民有志の働きと市民世論の盛り上がりにより長浜市、信用金庫を加えた第3セクターとして設立され、その後、ガラス工房として年間210万人の来街者を迎えています。



一方のアート・イン・ナガハマはまちづくりグループの市民によって芸術とまちの歴史を融合させた長浜ならではのイベントが生まれました。そこでは全国から集まったアーティストが、年に一度、青空の下で作品の展示、販売、実演を行い、アートを通じて作家や市民が自由なコミュニケーションを楽しんでいます。

私たちはそのイベントに参加しました。会場は黒壁ガラス館からスタートして「長浜の御坊さん」として湖北の人に親しまれている大通寺までの中心市街地の路上に、全国から集まった数多くの作家（250人）の作品が展示されています。大勢の行き交うひとたち（来街者）が芸術談義？とか、お買い物を楽しんでいます。

今回の研修は成功したまちづくりの好例として強く印象に残りました。

#### ◇ 4期生中間発表会（県民交流センター）

2003年10月26日（日）13:30～16:30

5期生も来年になるとグループに分かれての新たな活動が始まります。4期生4グループの中間発表をわが身に置き換えて注意深く聞き入りました。

◇ サブ講義（草津市まちづくりセンター）

2003年10月28日（日） 19:00～21:00

【テーマ】行政と協働について

塾生企画として実際にNPOにかかわっておられる公務員の方からの行政サイドからみた「NPOと行政について」の研修です。

1. ほんのちょっとアカデミックに官僚論—前例踏襲は悪か  
県政策調整部経営改革支援室 阪口博司（おうみ未来塾5期生）
2. NPOと行政の協働について  
県民文化生活部NPO活動促進室 初宿 文彦さん
3. NPOと行政：現場からの最前線報告  
蒲生・日野まちづくり協議会 安田尚司さん

実際にNPOとかかわりのある公務員の方から行政とNPOの現状と課題、そして今後のNPOとの協働のあり方について行政サイドの立場からの本音の話が聞けました。「公務員は職務に忠実であればあるほど『訓練された無能力』になるおそれがある」から始まりまして、一般市民として興味そそる内容でした。

◇ 研修（新旭）2003年11月8日（土）

【テーマ】現場を見て、現場の問題を解く

環境のまちづくり～菜の花プロジェクトと循環型社会

〔場所〕新旭町公民館、社会就労センターアイリスほか

〔講師指導〕藤井 絢子さん（未来塾運営委員）

環境に配慮したまちづくりに取り組む新旭町のまちづくり手法についての研修です。

10:15～ 「菜の花で循環型社会を」

講師 藤井 絢子さん

11:15～ 現地見学ガイド

阿部能英さん（新旭町環境課）

○ 社会就労センターアイリス

職員・利用者を中心にした地域住民が「菜の花エコライフネットワーク」を結成して廃食油回収し、BDFおよび粉石炭を生産しています。

○ 大師山さくら園

OMソーラー、太陽熱温水器、太陽光パネル、ペレットストーブ、クールチューブを設置したエコ幼稚園であり、建設に際しては地域おこしとして地元の建材、業者を使っています。

○ 町営住宅



これも地元の建材、省エネルギー構造であり、太陽熱温水器を装備したエコ住宅と地域おこし

○ 高島地場産業フェスティバル

地域通貨アーク（地域経済の活性化策の一環）による決済、地元中学生も「商い体験」で催しに参加しています。

15:00～ 菜の花の作付けについて

新旭町針江 作付け農家 石津 文雄さん

話すのが苦手という石津さんですが「石津さんはお上手（になった）。頭で考えてもだめ！やらないことには問題の解決も出来ないし前にも進みようがない！」藤井さんは強調されます。

17:00 解散

町長を先頭に行政、町民が環境に配慮した町づくり、地域おこしに熱心に取り組んでおられます。

◇ ワークショップ（草津市まちづくりセンター）

2003年12月6日（土） 10:30～17:00

【テーマ】「地域プロデューサーってなに？」

〔講師指導〕岸田 眞代さん（未来塾運営委員）

未来塾生の目指す「地域プロデューサー」について事前の塾生会（11月18日）で話し合いました。それを踏まえて「各自が思い描く地域プロデューサー像と自分が現在持っているスキルとのギャップを埋めるため、今後どのようなことを求めていけばよいか」についてのワークショップです。

10:30～ 個人の考え、思いを発表（一人3～5分）

11:45～ グループ分け

具体的な課題別（任意）3班に

13:00～ グループ討議

「地域プロデューサーになるために」

14:15～ グループ発表（持ち時間15分）

15:00～ 全体討議

18:00～ 忘年会

未来塾5期生の参加者には

A 何もわからないが何かやってみたいところからスタートしている人

B ある程度したいことがある人、また実際に活動していてスキルを高めたい人



との差がありAの人はまだまだ地域プロデューサー像も漠然としているし、Bの人は自分のフィールドやベースとなるものがあり、ある程度の今の自分に必要なものを感じていると思われる。AとBの思いの差がある中で、個々の思いを聞いたうえで3つのグループに分かれて討議しました。

話を聴いて、話していくうちに、地域プロデューサーとしての課題が整理できたと思います。

夜は草津の酒場で忘年会です。新しい出会いに感謝して Cheers!

#### ◇「グループ分け」から「グループ研究合宿」

年が改まり今年からはグループ研究に入ります。各自の研究テーマを求めるべく5期生専用メールでお互いの思い、意見を交わしました。そして第1回のグループ分け作業(2月14日)から始まり、3月12日の研究合宿でようやく4つのグループが決まりました。

#### ◇グループ分け作業①(県民交流センター3階和室)

20004年2月14日(土) 13:30~17:00

メール上で思い思いに流していたテーマについて話し合いました。一人でいくつも提案しているひと、提案のないひと、お互いのテーマの思いを話しあって共有化し、グループ分けをしてゆく最初のステップ作業です。

#### ◇グループ分け作業②(栗東市 さくら)

20004年2月28日(土) 13:00~17:00

これまで出てきたテーマ候補から共通するテーマもあり、それを整理してまとめて提案者の多い生涯学習、環境とその他の3つのグループに分かれて話し合いました。

同じテーマであっても物の見方、興味の持ち方など各人の思いも違ってテーマを絞り込むのも容易ではありませんでした。

この日はグループ分け作業会合前の午前にレクレーションとして栗東市のアグリでそば打ち体験をしました。

#### ◇グループ研究合宿

2004年3月12日(金) 18:30~翌日13日(土) 15:00

【テーマ】 グループ研究の研究テーマと活動グループのメンバーの決定

【場所】 こんぜの里森遊館(栗東町立森林体験交流センター)

3月12日(金)

18:30~ 夕食・懇親会

20:30~ 夜なべ談義

ゲスト：澤九麻男さん（おうみ未来塾 3 期生・こんぜ桃源郷代表）

未来塾の先輩の澤さんからは手品、腹話術、南京玉すだれを披露していただきました。

鉄の輪はずしの手品は天下一品の大道芸人さんです。

3月13日（土）

8:00～ 朝食

9:30～ グループ分け作業

12:00～ 昼食

13:00～ グループ分け作業（最終）

15:00 解散



これまでテーマとしてあがっていた 19 のテーマのうちから 7 テーマに絞り込みそれに絞って討議を

しました。今日中にそのなかから自分のテーマを決めねばならず、真剣な討議になりました。自分のやりたいことを話し、また他人の話を聴いて現状で自分をもっとも研究してみたいテーマを投票しました。

その結果、投票の多かった上位の 4 つのグループ①NPO 中間支援、②生涯学習、③子供の育成、④環境と決まりました。ただし、最終的に決めかねている人、欠席の人もあるので決まった 4 つのグループ内に限ってメンバーの変更はよしとしました。

その後、4 つのグループに分かれて今後の方針、進め方について話し合いました。

#### ◇4 期生 活動成果発表会、卒塾式（県民交流センター）

2004 年 3 月 7 日（日） 13:30～18:00

4 期生各グループの発表にそれぞれ特色がでていておもしろい。しかし、一方ではグループがまとまって活動することの難しさをも知らされました。来年は自分たちの番だと思うと一挙一動に注目して見守ります。

大丈夫かな、なんか心配になってきます。いつもながら運営委員の先生方の講評には学ぶことが多いです。

#### ◇グループ研究テーマ発表（草津市まちづくりセンター）

2004 年 4 月 29 日（木） 13:30～17:00

【テーマ】研究計画書作成・発表・意見交換  
各グループの研究計画書の作成と発表会です。

13:30～ グループ研究計画書作成

16:00～ 各グループの計画書発表と意見交換

17:00 解散

今回で4つのグループとメンバーの確定です。活動費として各グループに5万円支給され本格的なグループ活動の始まりです。

各グループの活動状況を5期生のメールで情報交換をし、グループ分けのあとも出来るだけ全体で顔を合わせる機会をしようと申し合わせしました。

◇5期6期生合同講義（県民交流センター）

2004年6月27日（土）14:30～16:30

【テーマ】地域プロデューサーの時代

講師 北村裕明さん（おうみ未来塾運営委員長）

おうみ未来塾が養成することを目的とする地域プロデューサーはなぜ必要なのか、どのような資質、能力をかねそなえねばならないのか。県下で活動されている方の例を挙げてのお話でした。未来塾で学ぶものにとって使命の重さを再認識いたしました。

先生の講義はいつも簡潔に分かりやすく話されて楽しく聴講できます。

◇公開講座（龍谷大学瀬田学舎/大津市）

2004年7月31日（土）13:00～15:00

【テーマ】まちづくり概論 ～全国の取り組み例から～

講師 岡崎昌之さん（おうみ未来塾運営委員）

6期生の講義に私たち5期生も参加しました。全国各地でのまちづくりに携わっておられる岡崎先生から数多くの取り組み事例の紹介があり、まちづくりを担う新しい自治、自治体のあり方についてのお話でした。

◇グループ研究 中間発表会（大津市ふれあいプラザ）

2004年10月10日（日）13:20～16:40

各グループ発表25分で質問10分の持ち時間です。

●13:40～ おうみ未来塾第5期生のグループ研究発表

13:40～14:15 ①まなぶくん「生涯学習を通じたこれからのまちづくり」

14:15～14:50 ②応援志隊「NPOに対する中間支援と地域活性化」

14:50～15:00 休憩

15:00～15:35 ③Four Leaves「引きこもり・不登校と人間の多様性の探索」

15:35～16:10 ④ツツ『環境』コミュニティG「新エネルギーと環境学習」

●16:10～ おうみ未来塾運営委員による講評

●16:40 閉会

発表会に向けて各グループ懸命にがんばって準備して本日を迎えた。熱のこもった発表

であったと思うが力及ばずの感がした。運営委員の先生からはかなり高い水準の成果にあるとは言われましたが。最終発表会に向けてがんばろう！



●17:30～ 交流会

会場：大津シャンピアホテル

発表という重圧から開放されて楽しい交流会になりました

◇合宿・忘年会（米原町）

2004年12月11日（土）18:00～12日（日）朝まで

【テーマ】コミュニケーション・グループ研究

【場所】エクスピア琵琶湖

温泉につかってゆったりした気分で忘年会です。グループ研究の打ち合わせのあとはみんなで調達した豪華な、しかも安上がりな料理と飲物を食べて飲んでの歓談です。

◇日高塾長を囲む会（草津市）

2004年1月15日（土）12:30～17:00

【場所】おくどさんの御飯屋 てんしょく

日高塾長を囲んで親しくお話ができました。「“抽象のはしご”を昇ってはいけない”のお話をされました。人と話をするとき、説明として一段階抽象的な方向に進めては、結局内容が相手に伝わらない。

「赤ってなんですか？」「それは色です。」

「色ってなんですか？」「それは光の屈折によって、起こる・・・」

これではどんどん抽象的になり、何も伝わらない。伝わらなければ、何もはじまらない。

「赤ってなんですか？」

「ほら、信号機の止まれサインですよ。」

人に説明する時はこの方向で、“抽象のはしごを昇ってはいけない”。

てんしょくの名田陽一さん(3期生)から未来塾グループ研究からてんしょく開業に至るまで事業化の過程についてお聞きし、グループ研究を今後の実践活動につなげるのに参考となる話してでした。

それと、おくださんで炊いたご飯、卵焼き、それと地酒みんなおいしかったです。有難うございました。



#### ◇プレゼンテーション講座

日時：2004年2月13日(日)13:30~17:00

【テーマ】プレゼンテーション指南

「あなたのプレゼンにひとひねり」

場所：県民交流センター会議室(ピアザ淡海)

講師：山口洋典さん(大学コンソーシアム京都)

卒業報告発表を間近に控えていいタイミングでのプレゼンテーション講座です。今回は6期生との合同講座でした。私たち5期生は卒塾発表のグループ研究テーマについてのプレゼンテーション、6期生はこれからのグループ研究のテーマの選定について



の発表です。私たちの一年前のなかなか決まらなかったことを思い出します。同じ思いをもった塾生たちとの交流の機会を持てることはいいことです。講師は発表に対しては従来の5W1Hに誰と・誰に(for whom)、どんなお金で(How much)、どこまで(How far)の1W2Hを加えた6W3Hが必要であると説かれていました。

毎度のことながら発表能力の未熟さを実感し、地域プロデューサーとして必要な情報発信力の向上のためにはプレゼンテーション技術とその訓練の必要性を今回も強く自覚いたしました。

卒塾発表会まで泣いても笑ってもあと3週間、待たなす！

#### ◇おうみ未来塾 第5期生卒塾式

2005年3月5日(土)

卒塾報告会 13:30~17:00

卒塾式 17:00~18:15

交流会 18:15~20:15

会場：滋賀県立県民交流センター 207会議室（ピアザ淡海2階）

プログラム：

13:00～ 受付

13:30～13:40 開会

主催者（安藤よし子理事長）あいさつ

13:40～14:00 おうみ未来塾第6期生の活動報告

～グループ研究に向けて～

14:00～16:15 おうみ未来塾第5期生のグループ研究発表

14:00～14:30 ①シンク『環境』コミュニティG「新エネルギーと環境学習」

14:30～15:00 ②Four Leaves「不登校・引きこもり一支援のあり方」

15:00～15:15 休憩

15:15～15:45 ③応援志隊「NPOに対する中間支援と地域活性化」

15:45～16:15 ④まなぶくん「生涯学習を通じたこれからのまちづくり」

16:15～17:00 おうみ未来塾塾長、運営委員による講評

17:00～18:15 卒塾式

18:15～20:15 交流会（ホテルピアザびわ湖）

#### ○卒塾報告会

私たち卒塾生は会場の準備、グループの最終打合せをするため10時に集合しました。会場の設定、各人の持場の確認、資料の確認に余念がありません。まなぶくんグループは昼食を取る時間をおしんでの発表資料づくりに追われています。瞬く間に報告会の時間が迫ってきました。



・「シンク『環境』コミュニティG」グループの発表  
「自然エネルギーと環境学習」について  
井上さんの奮闘ぶり、荒川さんの美声が印象的でした。



・ Four Leaves グループの発表  
「不登校・引きこもりー支援のあり方ー」  
パネルディスカッション方式による発表でした。  
この報告発表のさいに国松知事の飛び入り参加がありました。



・ 応援志隊グループ発表  
「NPOに対する中間支援と地域活性化」  
IT を駆使しての発表でした。



・ まなぶくんグループ発表  
「生涯学習を通じたこれからのまちづくり」  
発表者は最年少の大学生の川北くんでユニークな  
プレゼン手法での発表でした。



各グループの報告のあと塾長、運営委員の先生方からの講評をいただく。いつものことながら先生方の講評に感銘を受ける。鋭い指摘に驚きさえ感じます。安易な言葉使いを強く戒められ、またテーマの取り組みに対する認識の甘さを指摘される。やっと終わりホッ

とする間もなく先生方からの厳しい評価であった。

まだまだ私たちの考えは甘いぞ、もっともっと自助努力せよ、何を学んできたのかと叱咤激励さる。が、なんか報われない切ない思いが湧き上がってくる。

○卒塾式 17:00~18:15

安藤よし子理事長からは祝辞と記念品の授与、日高塾長から卒塾生 19 名（入塾時 21 名）各人に修了証が手渡された。

○交流会（ホテルピアザびわ湖）

18:15~20:15

長くて短かった 2 年間でした。各自の思いを秘めてまたの再会と活躍を祈願して「乾杯」！！



## 記念品

滋賀県指定伝統工芸品「下田焼」

下田焼の手になじむ丸みは手作りの証

心に残る藍色は伝統の呉須（ごす）の色

ひとつひとつ丁寧に心をこめて仕上げられています。

今後5期生が、淡海の各地で活躍するプロデューサーとなることを誓って、カップ底に「淡海力」の文字を入れました。



（文／5期生 西澤 勝）

「シンク『環境』コミュニティ」

## 自然エネルギーと環境教育



井上春雄  
竹谷利子  
岡本胤継  
荒川茂美

## グループ活動の概況紹介

### ■研究テーマ

自然エネルギーと環境教育

### ■問題意識

21世紀は環境の時代であり、次世代に引き継いでいく責任が我々に課せられた大きな問題である。まず、身近な地域の環境改善をどのように図るのか考えてみる。

### ■メンバーの役割

- 井上春雄……太陽光発電・風力発電・バイオマス発電など様々な新エネルギーを学習。  
菜の花環境学習では、草津市立山田小学校で子どもたちとともに実習。
- 岡本胤継……環境学習の手法をいろいろ学び、屋台村で環境ワークショップ（プロジェクトワイルドから）の進行をする。
- 竹谷利子……草津市子ども環境学習推進事業（エコミュージアム）、エコ・キッズくさつ支援隊（サポーター）、草津市立山田小学校の菜の花活動など草津市の子どもを対象にした環境活動に参加。
- 荒川茂美……エコ・キッズくさつに支援隊（サポーター）として1年間活動。

### ■エピソード

年齢差（約30才）や地域差（滋賀と奈良）、仕事の忙しさなどで個性あふれる面々とのコミュニケーションはム・ム・ム・・・むずかしい。もっといろいろ話す時間があったらなあ。ミーティングの調整がいちばんの課題だったのかも。

## 研究課題

21世紀は「環境」の時代であり、次世代に引き継いで行く責任がわれわれに課せられた大きな問題である。まず、身近な地域の環境改善をどのように図るのか考えてみる。

## 活動記録

5月17日 京エコロジーセンター見学

きょうとグリーンファンド大西啓子さんの話を聞く



京エコロジーセンター



(左) 雨水利用桶見本

(上) 風力・太陽光発電小型タイプ

7月12日 高取山ふれあい公園で森林発電プロジェクト・木質バイオマスの利用(木質ガス自動車)・BDFの説明を受ける。愛東マーガレットステーションにて廃食用油燃料製造装置「エルファ3型」を見学。



## 新エネルギー（BDF）について

### (1) 新エネルギーとBDFについて

#### ① 新エネルギーの主な分類

##### 自然エネルギー

太陽光発電 風力発電 地熱発電 海洋エネルギー（波力・潮力）

##### ・ リサイクルエネルギー

未使用エネルギー（大気と河川水などの温度差・工場などの廃熱）

廃棄物燃料製造（燃えるゴミ）

バイオマスエネルギー（家畜糞尿・木材・廃食用油→BDF）

##### ・ 高効率熱利用

燃料電池（酸素・水素）

コージェネレーション（天然ガス・灯油など）

従来型エネルギーの新利用形態

## ② B D Fについて

B D Fとは？：バイオ・ディーゼル・フューエル  
廃食油にメタノールと触媒を加えて精製した軽油の替わりになる環境にやさしい燃料のこと。  
化石燃料と違い、植物油を原料としているため、排出する二酸化炭素は、地球温暖化の原因にはならない。

<何故、排出する二酸化炭素は、地球温暖化の原因にはならないのか？>

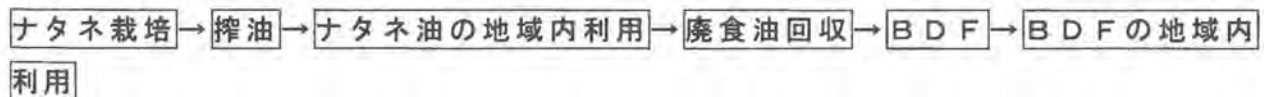
B D Fが燃焼する時も二酸化炭素を排出するが、その二酸化炭素は、その植物が生長する過程で吸収されたものであるため、差し引き0とみなされる。

### ● もし台所の流しに油を流したら？

約500CCの廃食油を流しに流すと、浴槽約330杯分の水が必要とされている。

## (2) 「循環型社会」「持続可能な社会」にむけて

### ① 菜の花プロジェクトの取り組み



(例) 休耕田で小学生とともに菜の花の種まき→搾油→学校給食で油を使用→B D F→学校給食用の運搬車などに使用

### ② 菜の花プロジェクトの利点



(3) BDFの精製の流れについて

<はじめに> 廃食油を回収する。

第 1 タ ン ク	<p>廃食油とメタノールと水酸化ナトリウムの混合液を混ぜる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">メチルエステル反応</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>廃食油のドロドロの成分であるグリセリンを取り除く</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
第 2 タ ン ク	<p>アルカリ性になった油を中和し、油の中に残った石鹼を取り除く</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
第 3 タ ン ク	<p>精製された油をお湯荒いし、石鹼分や汚れなどをきれいに取り除く</p> <p style="text-align: center;">↓</p>
B D F タ ン ク	<p style="text-align: center;">中継し、次のろ過タンクへ</p>
ろ 過 タ ン ク	<p style="text-align: center;">ろ過されたBDFはドラム缶や ポリ容器に移し替えられ、 それぞれ活用される。</p>

第一タンクでできたグリセリンの活用法は、まだ模索中であるようだ。

※この廃食油制精製プラントは、現在、1台 500～800万円である。

(4) 課題と地域プロデューサーとしての関わりについて

① 「なぜ、BDFなのか」の説明

<BDFの利点を説明>

- ・ 化石燃料と違い、植物油を原料としているため、排出する二酸化炭素は、地球温暖化の原因にはならない。
- ・ 資源の少ない日本に適している。

<BDFの問題点も十分に説明>

- ・ ディーゼルエンジンを使用するということで、ディーゼルエンジンについて触れなければならない。日本・アメリカでは、ディーゼルエンジンが環境に対して悪役扱いにされているが、EUではディーゼルエンジン車に着目をしている。
- ・ ディーゼルエンジン車は、植物油を燃料にすることが可能。例：大豆油（カナダ）

② 廃食油の回収を実施

- ・ 子どもたちとともに学校へ廃食油を集める。
- ・ 地域の会館にステーションを設ける。

③ 廃食油精製プラントの購入の協力

- ・ ファンド制を提唱、高価なプラント購入のため、市民・行政・企業などと連携をとり購入。

④ 地域・学校を巻き込んだ動き

- ・ (2) のことを踏まえ地域を巻き込んだ大きなうねりにする

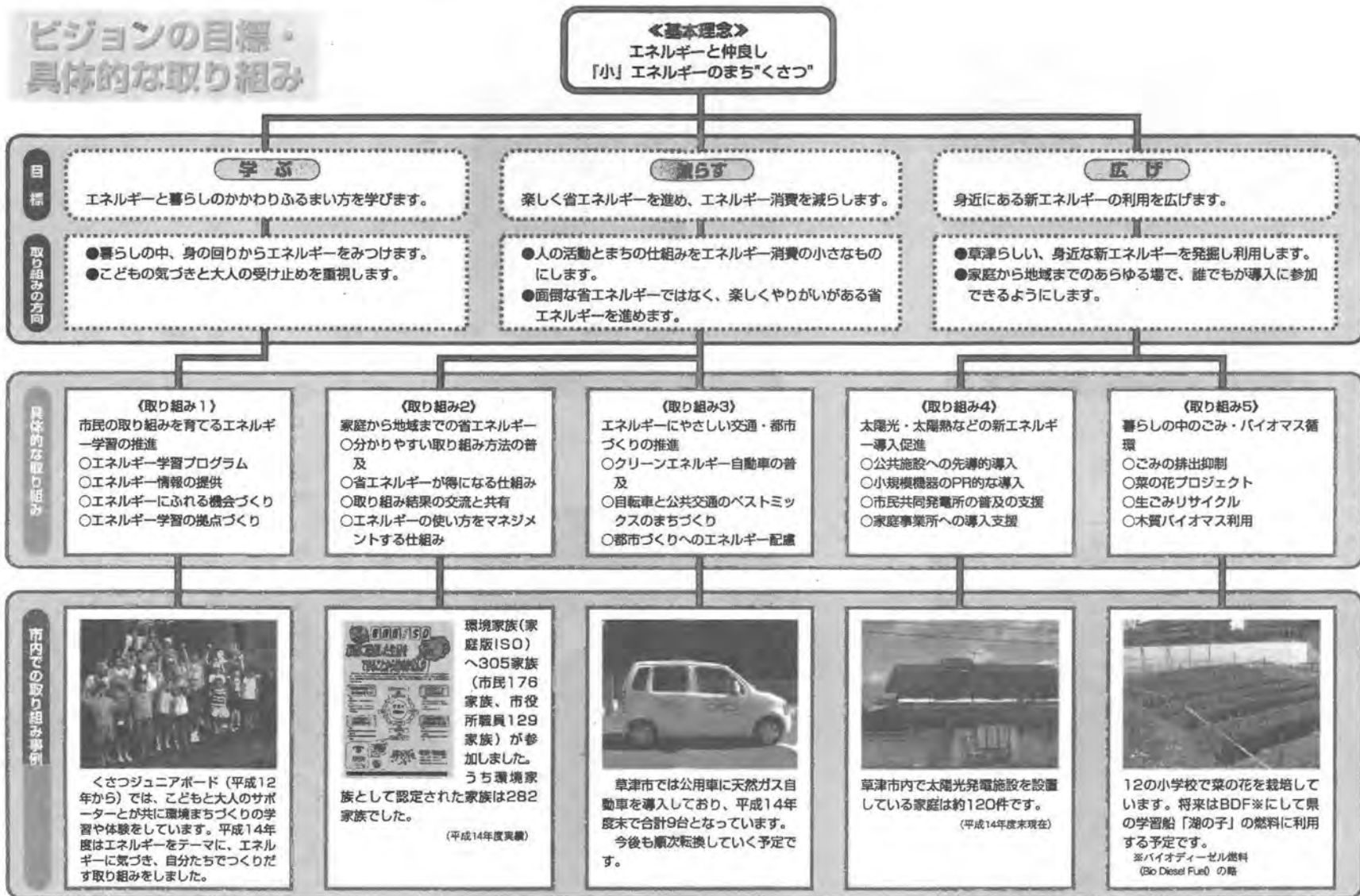
(5) 課題

- ・ ステーションや学校に集まった廃食油を精製プラントに回収するまでの工程。人手が必要。
- ・ 500～800万円の廃食油を購入しても、車1台や2台分にしか精製できなければ、かなりの割高。
- ・ 日本では、ディーゼルエンジンは悪者扱い。

【参考資料】

- ・ 「菜の花 エコ革命」(藤井絢子・菜の花プロジェクトネットワーク編著)
- ・ フェニックス株式会社HP
- ・ あいとう菜の花エコプロジェクトパンフ





菜の花プロジェクト を実践している草津市立山田小学校と市民活動団体草津塾協働による活動に参加。(写真は草津塾HPより)



種まき



種を採る



油を絞る



種を収穫

菜の花の種まき→菜の花収穫→乾燥→油搾り→学校給食のてんぷら油→廃食油BDF化→うみのこや学校給食車の燃料の一部。

今後の課題としては、廃食油のステーションや学校に集まった廃食油を廃食油精製プラントに回収するまでに人手が必要。また一機500～800万のプラントを購入しても、車1～2台分にしか精製できなければかなりの割高になる。ディーゼルエンジンを使用するということだが、日本ではディーゼルエンジンは悪役扱いとなっているということです。

### 環境教育が目指すもの

環境問題の本質を理解して、現代社会に山積みする課題を解決し、積極的に適切な行動を取れる人材を広く輩出して、社会を持続可能なものに変えていくこと

## 草津市のエコキッズくさつの支援隊に参加

エコ・キッズくさつ 活動プログラム 全6回

	開催月日	活動内容
第1回	7月17日(土)	アイスブレイク リサイクルとは? どんなものがリサイクルできるの?
第2・3回	8月24・25(火・水)	実際に、リサイクルしてみよう① 宿泊研修
第4回	10月16日(土)	実際に、リサイクルしてみよう②
第5回	11月20日(土)	みんなのリサイクル作品を発表しよう!
第6回	12月18日(土)	ふりかえり。まとめ。第4回草津市こども環境会議にむけて。

対象 小学4年生から中学3年生

運営 エコ・キッズくさつ支援隊(大人のサポーター)、草津市環境課

支援 草津ロータリークラブ

方針 次代を担う子どもの育成を中心とし、これに大人が関わり学んでいく子どもの活動を支援するサポーター・コーディネーターの育成をはかる現場での体験、具体的な環境づくりの実践を通じた学びとする。  
様々な人・世代・団体・地域等との交流とパートナーシップを目指す。



1泊2日の研修  
間伐竹で皿・コップ・箸づくり体験



リサイクルについて  
ワークショップ



リサイクルレシピづくり  
シュレッダーゴミで枕を作ろう



リサイクルデーをつくろう  
草津近鉄百貨店でアンケート調査



GO GO エコキッズ隊 壁新聞づくり



県代表 全国エコフェスティバルへ

草津市 子どもエコミュージアム事業

「自然素材での遊びと学習」に参加

主催 環境文化推進会議

日時 平成17年1月22日

場所 ロクハ荘

参加者 95名

内容 木製伝統玩具の展示・遊び 紙芝居（森と生命） たこづくりとたこあげ

（資料 写真）

## 子どもエコミュージアム事業

# 自然素材での遊びと学習



日時：平成17年1月22日（土）

場所：ロクハ荘

参加者：95名

内容：木製伝統玩具の展示・遊び

紙芝居（森と生命）

凧づくり／凧揚げ

e k o カルタの作成



エコカルタ

読み札の文言	解説の文言
い いつものよう、お買い物にはマイ・バック	レジ袋は、限られた資源を使ってできています。省資源を自分で実行します。
ろ 論より証拠、やります省エネ、つけよう記録	できることから身近な省エネ活動をしましょう。そして、できるだけエネルギー使用量を記録しましょう。成果が見られる楽しみがあります。
は 白熱球より電球型蛍光灯ランプを使いましょう。	交換することによる年間経費削減額は1790円になります。
に 入浴は、続けてすませ。残り湯は再利用。	200ℓのお湯を追い炊きで4.5℃あげるのを防止すると、年間5370円、二酸化炭素約80.3kgの削減になる。
ほ 舗装しない地面は、水を吸い、熱を取る。	舗装した地面は水を吸わないため、洪水の原因になったり、加熱されてヒートアイランドの原因になります。
へ 返却します。牛乳パックやトレーを回収箱へ。	スーパーで、回収箱を設置して回収しているところがあります。牛乳パック30本でトイレトーパー1個分です。
と トンボの育つビオトープづくり。	滋賀県は、トンボの種類・数では全国のトップクラスです。生き物を育てるビオトープづくりに挑戦し、普段から川や草原など自然を大切にします。
ち ちょっと外出、バスや電車を使います。	一人を1km運ぶ際の二酸化炭素排出量は、鉄道は自家用車の約11分の1、バスは自家用車の約半分です。
り 料理自慢、適量作ってゴミ減らし。	料理の作りすぎは、食べ残しによるゴミの増加や、食べすぎによる肥満の原因となります。また、エコクッキングにもつとめます。
ぬ 沼や田んぼ・干潟は生き物のオアシスです。	国際的には田んぼ・干潟を守るため「ラムサール条約」があり、みんなで生き物の生存の場を保全するよう努めています。
る 留守にする前、やろう消灯、とじまり、火の用心。	ついでに使用しない電気製品のコンセントも抜きます。
わ 割り箸をすかわず自分の箸で「いただきます」。	割り箸は日本で一日に約230億膳も遣われています。森林保護のため、使わない習慣をつけましょう。
か 買う前にラベルを見よう、エコ・省エネ。	エコ・省エネマークの表示のある商品は安心して使えます。
よ 容器再利用、詰め替え商品使います。	省資源の第一歩は、容器などの使えるものは使いきることです。
た 食べ残ししません、元気な子。	食べ残したものはゴミになります。ゴミの削減は身近なことでできます。
れ 冷蔵庫の開閉は少なく、すばやく。	年間約1230円の節減、開閉時間が長いと冷蔵効果も悪くなります。
そ ソーラーハウスに済みたいなあ。	太陽の光や熱は無敵です。限りある資源に代わって利用するのが賢明です。
つ 使わない、コンセント抜いてムダ省き。	待機電力の削減費用は、年間約3800円になります。
ね 根を張った樹木を育て、大切に。	樹木は生き物の生育、空気の浄化、木陰、水のろ過など多くの働きがあります。
な 慣れましょう。暖房20℃、冷房28℃。	電力の削減費用は、年間約2020円。工夫すれば快適に暮らせます。
ら ラップは、害の少ないポリエチレン製を。	市販のラップ剤は燃やすと有害ガスを出すものがあります。注意します。
む 無害の石けん、洗濯上手。	合成ではなく、天然素材でできた石けんは適量なら自然浄化します。
う うっかり、川や琵琶湖や海にゴミを捨てません。	ビニール袋などのゴミをエサと間違えて飲み込んだり、有害物でなくなる水生生物があります。自然とともにくらし
の 農業減らした野菜で健康家族。	滋賀県認証のこだわり農産物(化学合成農薬および化学肥料の使用量を通常の50%以下に削減し、かつ、琵琶湖および周辺環境への負荷を削減する技術で栽培された農産物)を使うと安全です。
お 温暖化防ぐ省エネ、環境習慣。	私たち家庭生活から発生させている二酸化炭素の量は全排出量の20%におよびます。地球温暖化防止に私たちでできるをやりま
く 草むらは昆虫の住みか、除草剤は使いません。	除草剤には、生態に危険な環境ホルモンを含む物があります。除草は手作業で。

や	薬剤はよく知り、正しく使いましょう。	殺虫剤、除草剤、農薬、殺菌剤には、人間の遺伝子や免疫性などに影響を及ぼす「環境ホルモン」を含むものがあります。常に知識の吸収につとめ、正しく使いましょう。
ま	マツタケは、大事に管理された山に育つという。	マキや柴を燃料にしていた時代は、山林を大切にしていました。現在は、荒れているところが目立ちます。森林の効果は、水の蓄積・浄化や生き物の住みかとして重要な役割をしています。ゴミを捨てたりしないようにします。
け	健康のもと。自転車に乗ってお買い物。	自転車利用、箒での掃除など、できるだけ自分のエネルギーを使います。
ふ	拭いて洗います。食器の油污れ。	油は水を汚します。またきれいにするには洗剤を多く使います。
こ	米のとぎ汁、庭木の水やり。	花には必要により、リン酸、カリ肥料を忘れずに。
え	エダマメは夏の味、季節の物がおいしいね。	果物や野菜は自然に採れる季節が決まっています。季節はずれのものにはハウス栽培で化石燃料をたくさん使います。
て	テレビの番組は選んで、離れて観よう。	28インチテレビを1日1時間観る時間を減らすと、年間約940円、二酸化炭素約14.7kgの削減になります。
あ	アイドリングストップ、タイヤの点検、父さんの習慣。	1日5分のアイドリングストップをすると年間約1710円、二酸化炭素約37.4kgの削減になります。
さ	散歩中のペットのフンは持ち帰ろう。	マナーを守り、環境を良くすることは動物愛護につながります。
き	規定の日、正しく分別。ゴミ出しを。	草津市では10種類に分別しています。
ゆ	湯の温度38℃以下で洗い物。	設定温度を2℃下げると、年間約1910円の削減になります。
め	目にやさしい「緑」は地球に大切なもの。	植物の緑は、太陽光線の光合成の賜物、植物なくては生活ができません。
み	水は、流しっぱなしにせず貯めて使おう。	自分で目標をたて、貯めた水を使う習慣を身につけたいものです。
し	シャワーの使い過ぎに気をつけよう。	1日1分間シャワーの使用時間を減らすと、年間約2110円の削減になります。
ひ	必要以上に紙も物も使いません。	資源の節約は、まず、必要以上の消費をしないことから始めます。
も	もう一度、使えるものはリサイクル。	捨てる前、購入前にリサイクルについて考えます。
せ	洗濯をまとめてしているお母さん。	定格容量の4割を入れて洗う場合と、8割の場合を比較すると、8割の場合が年間で約3220円、二酸化炭素約11.9kgの削減になります。
す	捨てる前、ルールとマナーを考えて。	タバコや空き缶などのポイ捨ては、ルールとマナーの違反です。

【参考情報】

- ・ 草津市・家庭版ISO参加者募集パンフレット
- ・ 滋賀県・ISOエコ家族(パンフレット)
- ・ 地球を守るくらし方環境事典(国土社、鈴木善次・原田智代著)など

## 第6回おうみ市民活動屋台村に参加

プログラム式環境教育（プロジェクト・ワイルド）を実施しました。

日時 平成16年11月27日  
場所 守山市民交流センター  
参加者 12名  
内容 以下の通りです。

- ①2グループに分かれて模造紙に湖と川を書く。
- ②池に周りに自分の家を書く。
- ③なぜ、そこに住みたいのか理由をグループ単位で確認する。
- ④生活に必要な施設を図に記入する。
- ⑤記入後に環境負荷がどのように掛かるのかを考える。

普通、川の上流部に宅地を選ぶ人が多いです。それは、下流が汚染されているという印象が強いからです。作成した図を繋げて参加者に「環境」は連続していることを確認していただきます。つまり自分たちの書いた図に他の図が繋がれた場合、上流は下流となるという実感を知ることになります。

次に

- ⑥生息していそうな動物を粘土で作り生息場所に置く。
- ⑦お互いのグループの作成物を見て意見を述べる。
- ⑧好きな動物を選びなぜその動物を選んだかを聞く。
- ⑨動物間の関連性をロープで繋いで行く。

これは、生き物が互いに関連して存在していることに気付いていただくワークです。ぴんと張ったロープ、そこで1種類の生き物が居なくなり、又、1種が居なくなる。という事が続くをロープの状態はどうなるか。食物連鎖を視覚的に味わいます。

時間の都合でこの2つのワークをして終了しましたが、ほとんどの方がプログラム式環境教育を体験するのが始めてで非常に興味を持っていただけました。



新エネルギーの考察からグループ活動を始めた私たちです。それが、省エネルギー→創エネルギーと思考が進む中で、この考えや実践活動を普及するには、物事の本質をきっちりと理解し行動できる核となる人の存在が必要だと改めて気付きました。要は、「環境」リーダーの養成活動が必要だと言う事です。このための手段として、プログラム式環境教育は有効な手段のひとつであると感じました。

「だんぼの耳と蟻のフットワーク」、色んな情報を収集して軽やかに行動を行える環境学習リーダーが今後要請されてきます。しかし、リーダーばかりでは行動を持続、発展してゆくことが難しい場合があります。活動の維持には、複数のリーダーよりも着実に実務をこなす人の存在が欠かせません。従って、こういう人材を得ることも課題です。

環境を核としたまちづくりを推進していく必要を感じます。

(環境ワークショップ チラシ)

(環境ワークショップ チラシ)

あ！発見市民の威力

第6回おうみ市民活動舞台村

## 環境ワークショップ ～プロジェクト・ワイルド～

「僕らのトンボ池」「ハンズティダンズティ」「食物連鎖」

プロジェクト・ワイルドって？

アメリカで開発された幼稚園から高校生までの生徒を指導する教育者向けに開発された環境教育プログラムです。生き物を題材として、参加者の気づきや理解から始まり、段階的に生態系の原理や文化などの知識、管理や保全などへの人間の役割、価値観の多様性や環境問題の構造を認識した上で、野生動物と自然資源に対して責任ある行動や建設的な活動を身に付けていくことを目的としています。



**日時** 平成16年11月27日(土) 10:30～12:00

**会場** 守山市民交流センター(さんさん守山)1F 交流室

**講師** おうみ未来塾5期生 岡本 胤雄 氏(総合教育研究所)

**申込み** 当日10時20分までに1F 交流室の受付に申し込んでください

**主催** おうみ未来塾5期生 グループ・シング「環境」コミュニティ

おうみ未来塾って？

淡海ネットワークセンターが、地域の問題を発見し、解決するための方策を考え、そのための活動を実践する人や事業ができる人、いわば問題発見力と政策形成力を兼ね備えた新しいリーダーを「地域プロデューサー」として位置付け、「地域プロデューサー」の育成・養成を目指すために開講した塾です。現在4期約100名の卒業生が、県内各地域で活発に活動をしています。



参加券

# まなぶくん

「生涯学習を通じたこれからの町づくり」

～市民講師による学びの提供～



斎藤富士夫 川北泰伸 邊見千恵子 西澤勝 中嶋守

1. はじめに
2. グループ研究活動の歩み
3. 活動の成果
4. これから未来に向けて
5. あとがき
6. 活動の記録《まなぶくん通信》

## グループ活動の概況紹介

### ■研究テーマ

「生涯学習を通じたこれからの町づくり」 ～市民講師による学びの提供～

### ■問題意識

わが国においては急速に少子高齢化が進んでいます。地域が継続的に成長し、活性化していくためには地域住民、とりわけ女性、高齢者が生きがいを持って元気に暮らせる地域社会を築くことが大事であり、「生涯にわたって楽しく学びあう生涯学習社会」の実現が必要と考えます。

### ■メンバーの役割

#### ○西澤 勝（大津市）

大手ゼネコンOB。グループの経費処理担当。塾生期間中に生涯学習インストラクター養成講座を受講し理論面での学習を行った。淡海生涯学習カレッジでは「自然環境と河川づくり」の学習活動報告を行い、環境学習・教育の面での実践活動を計画中。

#### ○川北 泰伸（彦根市）

同志社大学法学部4回生。湖南市民塾でのファシリテーター役を行い、独自の明るいキャラでグループ初講演がうまく行われた。卒塾と同時に新社会人。

#### ○邊見千恵子（長岡京市）

商社勤務40年OG。塾生期間中に自然大学を受講し、学ぶ楽しさを体験。これからは学びを活かすために、私有地でもある里山保全の実践を計画。

#### ○斎藤富士夫（湖南市）

会社勤務。連絡係り。各地の視察内容を「まなぶくん通信」として5期生メールへ配信。まなぶくんHPの作成と更新担当。活動の成果を湖南市の生涯学習ボランティアの会「湖南まなびすと」へ展開。

#### ○中嶋 守（虎姫町）

虎姫町議員。湖北地域の生涯学習の取り組みの情報収集を行い、長浜生涯学習課との連絡役を行った。湖北地区での生涯学習の推進活動。

### ■エピソード

おうみ市民活動屋台村へ参加、おそろいのハッピーを着て昔あそびの指導「竹がえし」を披露しました。竹べら6本を使っての遊びですが、参加者からは高齢者に無理なくできるので、手先の運動と脳への刺激に大変よいと評判でした。竹ひごから色を塗ってメンバーで自作した竹バラ・セット100組は当日完売となりました。

## 1. はじめに

「生涯学習」とは文字通り、人間は一生涯通じて学習、学ぶものである。分かっているようでよく分からない、なにかつかみどころがない言葉であるが学ぶことが大好きな5人がそれぞれの思いを抱いて「生涯学習を通したまちづくり」をテーマにあつまりました。

「まなぶくん」グループの誕生です。

## 2. グループ研究活動の歩み

### 2-1 研究活動経緯

グループ活動計画にそって現場主義に徹して調査することからはじめました。滋賀県、新旭町、草津市、長浜市の生涯学習課を訪れて行政の「生涯学習」の取り組みの現状の調査です。行政の「生涯学習」、「生涯学習社会」についての認識、現状、問題点を知ることができたこと、また、私たちも「生涯学習社会」の必要性を共有できたと思います。

また新旭町、草津市、愛知県でのセミナーに参加しました。「生涯学習とまちづくり」、「生涯学習とNPO」等の講義、シンポジウム、ワークショップを通じて多くのことを学ぶことができました。特に初めての人との出会いで素直な気持ちで話し合えるのは素晴らしいことです。

そのほか、メンバー各自は淡海生涯カレッジ、NPO 自然大学（大阪）ほか各地で催される学習講座に参加して互いに話題提起してスキルアップに努めました。

次に、生涯学習をサポートしている団体の現状を知るために実際に活動しているグループの訪問です。草津市の市民講師による「ゆうゆうびと講座」をささえる「ゆうネットくさつサポーターの会」と、生涯学習インストラクターの会としては全国的にもはじめてのNPO法人で全国からも注目されている「NPO 法人滋賀県生涯学習インストラクターの会」の2つの活動グループと意見交換をしました。両グループとも共通の悩みは学習を受ける人が少ないことと、NPO としては有料の講座では人が集まらないこと、行政側のガードが固く地域外のNPOが入り込めないなどの意見が印象に残っています。

グループ活動後半からイベントに企画参加しています。草津市の市制50周年のイベント及び、おうみ市民活動屋台村に参加しての昔遊びの「竹かえし」の実演と指導です。ここにおいてもイベントに参加してくる人は少ないです。初めてイベントに企画サイドに立ってみると来てくれる人が少ないのが残念で寂しい思いがいたします。しかし、イベントに企画されている多くの人たちに接していますと今まで違った世界に入っていく思いがいたします。

次のイベントは新生都市湖南市での市民塾での講演です。各地で取り組んでいる生涯学習の事例と現況について訪問して得た資料を基にして発表しました。そのあとは「地域資源を生かした生涯学習」についてのワークショップです。甲西町、石部町のひとたちが一緒になってのまちづくりに少しでもお役に立てればいいなあの思いでした。

活動経緯一覧

1. 報告会		
月 日	活 動 内 容	場 所 (主催者)
4月 29日	「まなぶくん」活動計画発表	草津市まちセンター
10月 10日	グループ研究 中間発表会	大津市・ふれあい広場
3月 5日	グループ研究 卒塾報告会	県民交流センター
2. 行政機関の生涯学習取組み実態聞き取り調査		
5月 21日	滋賀県生涯学習課懇談	滋賀県県庁
6月 23日	新旭町生涯学習課懇談	新旭町・公民館
7月 14日	草津市生涯学習課懇談	草津アミカホール
8月 6日	長浜市生涯学習課懇談	長浜市役所別館
3. セミナー参加 (講座とワークショップ)		
6月 9日	地域アニメーター養成講座 (福留強氏講師)	新旭町・生涯学習課
7月 10日	地域アニメーター養成講座 (ワークショップ)	新旭町・生涯学習課
7月 14日	ボランティア養成講座 (ゆうネットサポーター)	草津市・生涯学習課
1月 27日	生涯学習とNPOについて(講演とシンポジウム)	あいち生涯学習NPO
4. 生涯学習NPO法人との意見交換		
7月 14日	草津ゆうネットサポーターの会	草津アミカホール
9月 25日	NPO 生涯学習インストラクターの会	近江八幡 GNET しが
5. イベント・発表会・協議会参加		
9月 24日	滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会	守山市・淡海センター
10月 17日	草津市制 50 周年イベント・昔遊び「竹かえし」	草津アミカホール
11月 27日	G-NET しがフェスタ 2004 での講演	近江八幡 GNET しが
11月 27日	おうみ市民活動屋台村・昔遊び「竹かえし」	守山市民センター
1月 14日	湖南市民塾での講演 (湖南市)	石部文化総合センター
6. 勉強会・ミーティング		
9月 11日	生涯学習(教材)・まちづくり実例 (成田氏講師)	県民交流センター
10月 3日	ハッピー作り・中間発表ミーティング	グループ宅
11月 7日	竹ペラ手作り作業	グループ宅
12月 11日	湖南市民塾での講演ミーティング	米原・エクシブ琵琶湖
1月 9日	湖南市民塾での講演ミーティング	淡海ネットワーク・センター
2月 13日	成果発表会に向けたミーティング	淡海ネットワーク・センター
2月 22日	成果発表会に向けたミーティング	草津市まちづくりセンター
3月 1日	成果発表会に向けたミーティング	草津市まちづくりセンター

## 2-2 生涯学習とまちづくりについてのまとめ

「生涯学習」につて参考文献、講義から学んだことを整理してみました。

生涯学習とは「生涯を通じて人間的、社会的、職業的発達のために行われる学習」です。世界の生涯学習の捉え方も国によって違います。

生活の質の向上、精神的豊かさ、生きがいのため（日本）

労働者の継続、教育訓練の推進、経済的利益のため（西欧）

基礎教育の普及、修了率の低さを補うため（途上国）

その国の生活状況によって生涯学習の目的が違ってくるのが分かります。

生涯学習の範囲とは日本ではあらゆる「学習」が生涯学習にふくまれています。ただし、「学習活動」としての生涯学習をさす場合は「学習活動における意図的な学習」であり、「日常生活における偶発的な学習」たとえば、食事、散歩、カラオケ、宴会など個々の活動は除外されます。

生涯学習社会とは「人々が、生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価されるような社会」であり、「今日、変化の激しい社会にあって、人々は、自己の充実・啓発や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を求めている。これらの学習は、各人が自発的意思に基づいて行うことを基本とするものであり、必要に応じ、自己に適した手段・方法は、これを自ら選んで、生涯を通じて行うもの」であります。

### 生涯学習の振興理由

「生涯学習体系への移行」のさいの臨時教育審議会の答申は、必要な理由として3つあげています。

- ①「学歴社会」の弊害の是正
- ②「社会の成熟化」に伴う学習需要の増大への対応
- ③「社会・経済の変化」に対応するための学習の必要

日本以外の先進諸国では③の社会・経済の変化」という理由（特に「経済のための手段」という側面）のみが生涯学習の振興理由とされています。

もう少し整理してみます。

今回の調査をとおして大人、子ども、地域のひとの3つの視点から生涯学習に何を求めているのか。

### 子供の視点

- ・ 大人との接点
- ・ 人生のモデル
- ・ 選択肢を広げる
- ・ 地域を知る
- ・ カッコイイ大人
- ・ 地域の先生
- ・ 学校で習ったことの実践
- ・ 学校で学べないことを学ぶ

### 大人の視点

- ・ 生きがい ・ 時間的余裕 ・ 社会貢献 ・ 自己実現 . . . . .

### 地域の視点

- ・ すみやすさ ・ 活気 ・ 愛着歴史 ・ 伝統の継承 ・ 環境保全
- ・ 福祉増進 ・ 青少年育成 ・ 住民主役 ・ 経済活性化 . . . . .

地域衰退の原因は次のことが考えられます。

### 地域衰退の原因

#### 社会情勢の変化

- ・ 少子高齢化 ・ 不景気 ・ 犯罪、安全性の衰退 ・ 取り残され ・

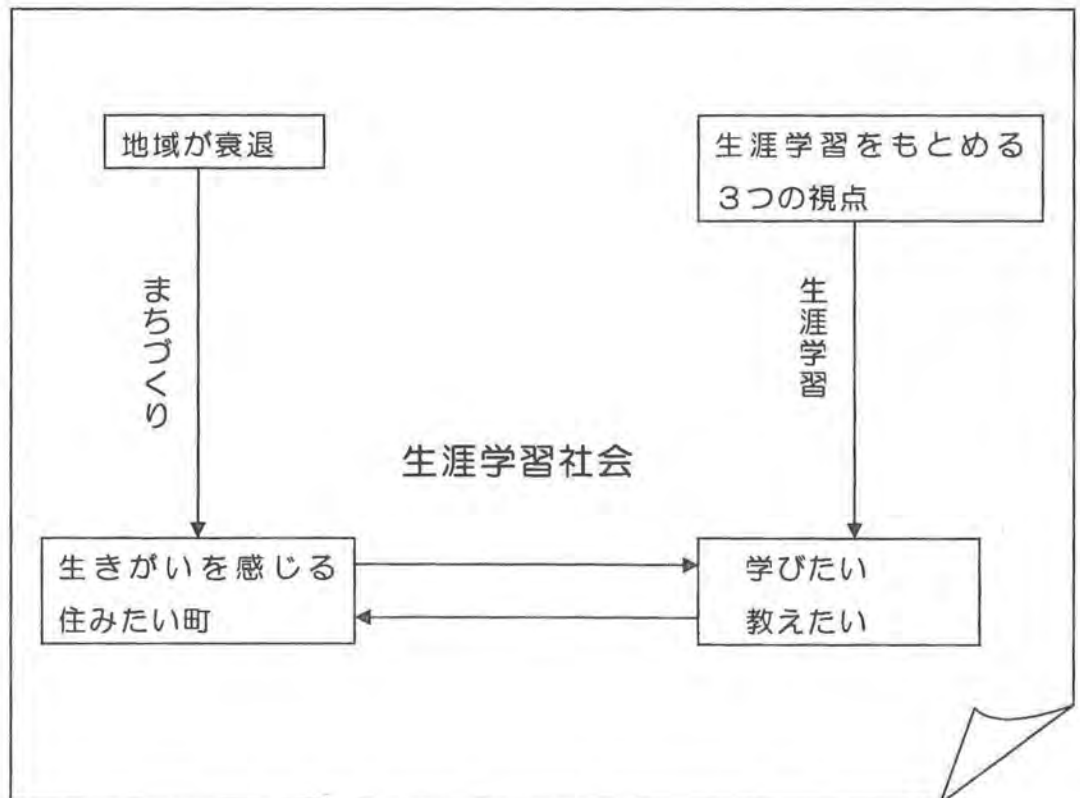
#### 環境破壊、

- ・ 公害 ・ 自然破壊、

#### その他

- ・ 文化衰退 ・ 伝統 ・ 歴史など資源がない

・



いろいろの世代、立場の人がそれぞれ違った目的で多くの人たちが生涯学習を学び、教えることを望んでいます。まちづくりとは住みたい気持ちをおこさせる魅力ある町をつくることです。職業上の学習にしろ、教養的・趣味的なものの学習であれ、それらを学習した人たちが、その学習成果を他の人や社会のために役立ていく。そこには、好ましい人間関係のネットワークが構築される。そしてそこから強いては生活の質の向上、精神的豊かさ、生きがいが図られてまちづくりにつながっていく。そのような仕組みを生涯学習社会と考えます。

生涯学習とは学び、そして学んだことを活かすことであり、それが自己実現とよりよい社会を目指すことにつながる。強いては社会に役立ち自分の生きがいとなって地域のまちづくりとなる。

「活かす」ということの中の代表格がNPO（ボランティア）活動です。

#### 生涯学習とNPO（ボランティア活動）について

- ①NPO活動そのものが自己開発、自己実現につながる。すなわち生涯学習である。
- ②NPO活動を行うために必要な知識、技能を修得するための学習として生涯学習があり、学習の成果を活かし深める実践の場としてNPO活動がある。
- ③人々の生涯学習を支援するNPO活動によって生涯学習の振興が一層図られる。

#### 生涯学習とまちづくりについて

- ①まちづくり活動そのものが自己開発、自己実現につながる生涯学習となる。
- ②まちづくり活動を行うために必要な知識、技能を修得するための学習として生涯学習があり、学習の成果を活かし深める実践の場としてまちづくり活動がある。
- ③まちづくりの「要素」としての生涯学習、人々の「幸せ」は物質的な豊かさから精神的な豊かさを求めている。

### 3. 活動の成果

県下市町村のいくつかの生涯学習活動を視察し、行政職員の方や住民の方と接し貴重な体験をすることができました。市町村が行っているいくつかの養成講座へも参加することができ、そこへ参加している地域の方からも貴重な意見を伺うことができました。最初は行政主導型で人材育成の養成講座が開かれ、その人材が行政との関わりで学校支援や地域活動を行いはじめているところもあります。

新旭町では独自の子供が主役のまちづくりを展開していて、子供地域アニメーター養成講座を開催し、学習成果を地域で活用するシステムとして、修了者には認定書を発行して地域の大人と子供のかかわりの支援を推進しています。新旭町へは5期生全体での研修を含めると4回の訪問となり、生涯学習課の方や地域の方との接点ができたことは各

メンバーの財産となりました。

草津市では単位制生涯学習プログラムを採用した生涯学習大学があり、12年目を迎えています。100単位を習得すると「奨励賞」の資格を得られます。学習内容は草津市だけでなく滋賀県内の地方自治体等が実施するものも含まれており、行政が行う学級・講座・教室だけでなく、民間・学校・グループの事業も含まれています。単位の認定は参加型学習のほかに企画に参画、出品、応募による参画型学習、応募型学習も含まれています。その学習のなかのひとつに草津市ゆうゆうびと講座があります。

草津市ではゆうゆうびとバンク（学習ボランティア登録情報）を整備して市民の学びを生かす仕くみを作っています。特に資格は要らなく、教えたい人が登録でき、自主企画による講座を開いています。教えたい人が講座企画を作り、ゆうネットサポーターが講座開設のサポート、行政が広報、場所の手配をしています。教えたい人と学びたい人をつなぐサポート体制が市民と行政の間でうまく運営されています。行政の資源（公民館や行政による広報など）を利用し学んだことを生かす場が提供されています。

湖南省で開催された生涯学習ボランティア講座（湖南省市民塾）でまなぶくんグループによるワークショップ（テーマ：地域資源を生かした生涯学習）を行いました。その中から参加者の声として、多くの文化財や巧みの人が市内には住んでいるが、そのような財産をうまく生かす場所がない。行政がすべて出来るのではなく、学びたい人と地域の資源をうまくつなげる市民活動が必要ではないかという提案がだされました。

学んだこと（学習成果）を生かすことは、自己実現であり、心理学者マズロー博士の欲求の5段階説（生理→安全→所属・愛情→承認→自己実現）による最上に位置します。自分の能力、可能性を発揮し、創造的活動や自己の成長を追求することであり、その結果、人が元気になり、地域が活性していく社会ができるといわれます。市民講師による学びの提供、支援団体による機会と場の提供があって、そこに学び合う地域社会ができ地域が元気になるといえます。

#### 4、これから未来へ向けて

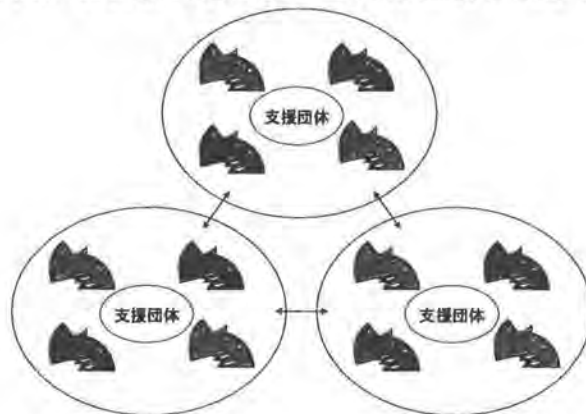
これからの生涯学習社会では、従来型のカルチャースクールのような自己満足だけの学習ではなく、生涯学習を通して学んだ内容を自らが地域に還元するような、循環型である住民参加の生涯学習が期待されています。これを実現させるためには、学んだ内容を地域に還元する為の機会や場の提供が必要であり、学びたい人と教えたい人をつなぐ、それをサポートするためには行政と民間支援団体の連携が必要です。

今回の報告に先立ち草津市の生涯学習課から生涯学習大学にかんする回答をいただきました。県下で最も活気のある草津市で市民の生涯学習にたいする意欲が非常に高まりつつあるにもかかわらず入学者が減少しており苦慮されています。そのために民間企業などとの

情報交流や連携を視野に入れ、多様な市民のニーズに対応していくことがさらなる振興、普及につながると認識されています。

地域レベルで既に教えたい人（市民講師）の登録制度をもち、市民講師による学びを提供しているところもあります。このような制度を発展して、地域の中で学びたい人と教えたい人をつなぐことから、地域を超えて学びたい人と教えたい人をつなげるネットワークが必要であり、これからの学び合う生涯学習社会には大切であると考えます。まなぶくんメンバーはこれから、各地域で自らの学びを生かす活動を展開します。

メンバーの斎藤は「滋賀の生涯学習社会づくり推進協議会委員」としてこれからの滋賀の生涯学習社会づくりに、この研究活動の中で得た経験を活かし参画する意向です。



学びたい人と教えたい人を結ぶ、顔が見えるネットワーク

## 5. あとがき

中間発表での運営委員の先生方からはどういうことをしたいのかわからない、どういう方向でまとめるのか、具体的な活動がどういう方向でやっていくのか、特定の地域と個別のテーマに絞ってやったらどうかと多くの指摘をいただきました。

中間発表以後は NPO 訪問、イベント、講習会の参加、昔遊びの竹がしの実演、湖南市での市民講師としてグループとして活動してきました。その間、指摘されたことについては念頭においてきましたが満足な結論には最後まで到達することが出来ませんでした。

活動を通したグループの共通認識はなんだったろうか。

学びたい、教えたいと思っている人が大勢いること。また習ったことを活かしたいとおもっている人も大勢いる。学び合う生涯学習社会がこれからのあたらしいまちづくりには大切であることも実感として知ることが出来ました。そしてそのためには地域を超えて学びたい人と教えたい人をつなげるネットワークが一番大事であると考えました。そしてグループ活動の成果は卒塾後にそのネットワークづくりを実現させることであります。

「生涯学習で飯が食えるか？」の当初のサブテーマは生涯学習で飯を食うのが本来の目的ではなくて生涯学習を振興すること、そしてそれを通して社会に役立てることが第一儀であるとの立場から時期尚早と考えて省きました。しかし、今後の堅固な生涯学習社会を築くには収益性を確保し、飯の食える、生涯学習社会の到来は必要と考えています。

グループ研究活動でお世話になりました、県教育委員会、新旭町生涯学習課、長浜生涯学

習課、草津生涯学習課、湖南省生涯学習課、NPO法人滋賀生涯学習インストラクターの会の皆様にお礼を申し上げます。そして2年間5期生のお世話をさせていただきました淡海ネットワークセンターの笹山さん、そして事務局の皆様へも厚くお礼申し上げます。これからが私たちのスタートです・・・・・・・・・・

## 6. 活動の記録《まなぶくん通信》

まなぶくん通信 2004年5月21日 滋賀県生涯学習課訪問

県庁生涯学習課訪問の要約です。笹山さんから事前の訪問目的を伝えていただいたので、いろいろと中身のある訪問でした。

参加者：県庁生涯学習課：板倉様、森野様

まなぶくん：邊見、西澤、斎藤 + 小久保さん

事務局：笹山さん

川北君は就職活動で東京、中嶋さんは所要で秋田の為に不参加。小久保さんが今回飛び入り参加。これからもいろいろな所へ訪問しますので、飛び入り参加歓迎です。いろいろな視点で学び会えればと思います。山田さんは都合で残念ながら今回は不参加でした。

■事前に中央教育審議会の(生涯学習の振興方策についての審議経過の報告書 H16・3月)をまなぶくんメンバーで熟読、この方策に関する滋賀県の取り組みをお聞きした。「滋賀の生涯学習社会づくり基本構想」として進めていて H10 年に制定され H22 年までの基本構想の枠組み。今年度と来年度で基本構想の見直しを行う計画。県民の声の反映として：

\* 県民意識調査の実施(今年)

\* 推進協議会委員の公募(2名で任期は2年)

まなぶくんメンバーの活動研究成果が反映できるチャンスかも、応募の検討中。締め切りは6月30日。

■各市町村の基本構想の資料と社会教育関係の学級・教室・講座の実施状況の資料も頂いた。各市町村で取り組み内容に差があるように見えるが、もう少し分析をする必要がありそう。

■しが子どもの世紀3カ年プロジェクトの取り組みで、学校、地域、家庭の連携・協働が大切であり、住民参加の必要性について話しがあり、地域コミュニティーコーディネーターの育成が推進されている。

■「成人教育の充実活性化方策」についての資料を頂いた。2007年問題(多くの退職者、地域への溶け込み問題等)に関して、大人の社会参加促進の学びの課題が提起された。

■その他

\* 地域にあった持ち味を生かした地域づくり

\* 情報発信の重要性、広報の大切さ

\*生涯学習分野での IT 活用の事業計画は具体的でない、そこが行政以外が入り込める可能性大。

\*図書館事業について、永源寺町ではユニークな事業をしている。

\*生涯学習インストラクターの NPO 組織が滋賀県（近江八幡）にできた。

まなぶくん通信 2004 年 6 月 9 日 地域アニメーター養成講座 新旭町

6 月 9 日新旭町で「生涯学習でまちが変わる」聖徳大学生涯学習研究所所長 福留 強氏の講演に参加しましたのでキーワードをお伝えします。生涯学習で飯が食えるか！から講演がはじまり、各地の事例を入れての講演でした。

◆生涯学習時代の課題

やり直しのきく社会

何処で学んでもその成果が正当に評価されること

◆地域の活性化に役立つ自己を生かす活動

地域の活性化とは、一人一人の活性化（生涯学習が基本）

生活の向上

生涯学習で飯が食えるか

リタイアメントビジネス/コミュニティービジネス

一人一人の活性化、生きがいのある個人

市民が主役、地域が創る学習機会

市民が 7 割、役場が 3 割

市民大学などの市民講師による有料講座

まなぶくん通信 2004 年 6 月 23 日 新旭町 生涯学習課訪問

【日時】6 月 23 日（水）10：00-12：00

【場所】新旭町公民館 4F 会議室

【出席者】新旭町生涯学習課：井上課長補佐、横井川主査、岸本さん、川島さん、

まなぶくん：邊見、西澤、斎藤、

（川北はカゼで欠席、中嶋は都合つかず）

淡海ネットワークセンター：笹山さん、竹岡さん

【内容の要旨】

- ・生涯学習課は公民館内に設置されていて、公民館主軸に生涯学習時事業を展開している。
- ・特に青少年の支援事業には財政支援も含めて力をいれている。土曜日の午前中に青少年を対象にした講座を 20 講座以上行っている。青少年の健全育成が 町としての方針。

- ・総合型スポーツクラブを検討している。ひとつのスポーツ活動だけをするのではなく、1週間に1日は講師として学生が他のスポーツ活動者や地域の人に 教える側に立つような、参加型スポーツ振興を検討している。
- ・熊野本遺跡群の発掘により保存活動が検討されていて、地域の人的資源を活かした事業展開を考えている。伝統や昔の民具を体験できるような仕掛け。その中で高齢者の知恵を活用したい。
- ・公民館事業である、さつき大学が行われている。公民館講座で講師を町内・外から有償でお願いしている。合併を意識して郡内の人を受講を可能にしている。参加費用は年間費 1000 円、高校生以下は 500 円で材料費等は別。講師料は 町内講師で 5000 円/1 回程度。住民講師ではなくプロレベルの講師を格安でお願いしている。
- ・地域住民の参加型として、子ども支援地域アニメーター講座を行っている。

【その後の検討会の意見】

- ・財政的にも子ども支援に関する行政主体の事業が活発に見えた。
- ・行政としても、合併を考えるといつまで財政の確保ができず、行政主体の活動が継続してできるか懸念をもっている。
- ・住民参加を啓蒙するような、養成講座にも力を入れ始めている。子ども支援地域アニメーター養成講座など、これは全国的に珍しい講座。
- ・今回は行政の側からの説明だったので、7月10日の養成講座に参加（西澤・斎藤）した時に住民側の想いを聞いてみたい。



新旭町生涯学習課訪問

まなぶくん通信 2004年7月10日 地域アニメーター養成講座 新旭町

◇新旭町・生涯学習の取組み（一部先月訪問内容と重複します）

公民館運営を民間との協働を考えたい、例えば、公民館講座を民間運営にするとか。青森・十和田市の事例がある。

#### ◇地域活性化事業

自治会住民(22自治体)の得意分野を生かし、経済活動につなげる、地域づくりの支援

- ーコミュニティビジネス研修
- ー地縁団体活動有効利用の研究
- ー朝市グループの育成
- ー自治会ホームページの開設支援
- ーNPO研修

#### ◇子育てまちづくり(青少年課を独自に作っている、県下では新旭町だけ)

- ーしあわせ子育てのまち宣言 H16.4.1
- ー合併前に仕組みをつくり、合併後も継続できる体制づくり
- ー地域運営学校の創設
- ー子育てプロジェクトR(民間事業)の設立支

#### ◇子どもが主役のまちづくりのワークショップ

聖徳大学・生涯学習研究所長 福留 強先生による、子どもが主役のまちづくりについてグループに分かれてアイデア創出から事業計画作成を行った。

6月の訪問で町の生涯学習を通した町づくりの力の入れようを予備知識として持っていたが、今回の養成講座を受講して、新たにその力の入れようが理解できました。生涯学習課が地域活性化事業まで考えていることには驚きです。講座終了後に懇親会があり、すべて手づくりの料理がだされ、西澤さんと料理を堪能しました。当日に切り出したという、竹で作った器や、ビールジョッキもビックリです。懇親会には町長さんもお酒持参で参加され、町長と感じさせない和やかな懇談会でした。4期生の岸本さんも懇親会に参加されていて、いろいろお話を聞きました。町の取組み、財政も含めて、力をいれています。支援体制もできていて、住民参加を期待している状態。言い換えると、住民参加、住民指導型の活動がまだ少ないと関係者が言っていました。



新旭町子ども地域アニメーター養成講座